

城南

校風築いた先輩に感謝

東城陽中 創立30周年記念式典

城陽市立東城陽中学校(高野徹校長)の創立30周年記念式典(同校校体育館)が開かれた。

第11654号【新聞定価1ヵ月1050円 1部 50円】



講演する棚橋専務理事

同校は、1981年4月に市内で4番目の中学校として城陽中学校から分離新設された。式典では、堀井委員長が「これまで6825人の卒業生を送り出しており、いつまでも東城中の卒業生よかつたと誇れる学校であつたほしい」と挨拶。高野校長も「30周年を節目として、さらに生きる力を育むことを目指し、豊かな心を持った生徒を育てるべく努力したい」と言葉をつないだ。来賓祝辞に続いて生徒代表の小林和華子と上映された。

んが、今、素晴らしい校風を築いてくださったこの30年間の先輩たちに感謝しています。今度は私たちが、10年後、20年後に東城中へ通う生徒たちに、同じように感謝してもらえよう。先輩になるため、1日1日の学校生活を大切に過ごして生きたい」と感謝の気持ちを込めて挨拶した。

このあと記念行事では、吹奏楽部の演奏に続いてまいど1号打ち上げ成功から夢は再び宇宙へ」をテーマに東大

◆：城陽市立東城陽中学校(高野徹校長・生徒346人)は20日、創立30周年記念式典を同校体育館で開き、棚橋秀行東大阪宇宙開発協同組合専務理事のユニークな講演や、卒業生の内海哲也巨人軍投手から寄せられたビデオレターなどに生徒、保護者らが沸いた。

◆：同校は、城陽市が人口急増期だった

昭和56年4月、城陽中学校から分離、北城陽中学校と同時に開校した。開校時は、生徒数832人だった。

◆：午前9時開式の式典で堀井裕司実行委員長は、延べ千人の作業で整備された

◆：大阪の中小企業の技術力を結集した人工衛星「まいど1号」打ち上げに中心的役割を果たした棚橋専務理事の記念講演は、ユニークでエネルギーギッシュ。会場内を飛び回り、生徒を壇上に呼びながら、

◆：このあとも頑張らないうちから、城陽市立東城陽中

まいど1号、ユニーク講演

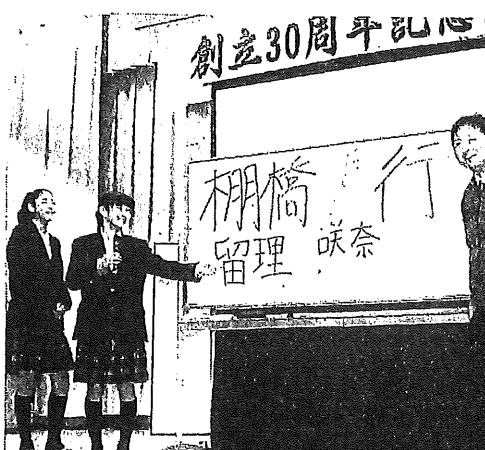
創立30周年、内海投手も

だが、城陽市の人口が平成8年9月の8万5533人をピークに減少期に入ったことで減少、現在は開校当時の半数もい

る力を育むことを目指し、豊かな心で生徒を育てる努力をしていきます」と式辞を述べた。また生徒を代表して小林和華

名前の意味や命の誕生についての話から「生まれることの奇跡」を知り、「すべてに意味がある」とことを説いていった。また、東城陽中卒業生の内海投手からのビデオレターは、堀井実行委員長が東京まで出かけてインタビューしたもの。笑顔で後輩らに、学校生活の思い出などを話した。

【写真】生徒と話しながら存在の意義を教える棚橋さん



◆：同校は、城陽市が人口急増期だった

昭和56年4月、城陽中学校から分離、北城陽中学校と同時に開校した。開校時は、生徒数832人だった。

◆：午前9時開式の式典で堀井裕司実行委員長は、延べ千人の作業で整備された

◆：大阪の中小企業の技術力を結集した人工衛星「まいど1号」打ち上げに中心的役割を果たした棚橋専務理事の記念講演は、ユニークでエネルギーギッシュ。会場内を飛び回り、生徒を壇上に呼びながら、

◆：このあとも頑張らないうちから、城陽市立東城陽中

名前の意味や命の誕生についての話から「生まれることの奇跡」を知り、「すべてに意味がある」とことを説いていった。また、東城陽中卒業生の内海投手からのビデオレターは、堀井実行委員長が東京まで出かけてインタビューしたもの。笑顔で後輩らに、学校生活の思い出などを話した。

【写真】生徒と話しながら存在の意義を教える棚橋さん